

達参会ニュース

2021年（令和3年）第15号

発行人 達参会（齊藤達也後援会） 長野県上田市中央2-20-12 討議資料

TEL&FAX 0268-75-0175 E-mail: t.saito.koenkai@gmail.com



◆新しい家族が増えました🐶

5月より「犬の命を守る会・わんわんライフ」さんにご紹介頂いた豆柴（ココア、メス、2歳未満）を迎え入れました。議員になってから地域課題として関わった地域猫活動が、「一匹でも犬・ねこを救う会」などボランティアの皆さんや獣医師の先生、上田保健福祉事務所、上田市など様々な関係者の情熱と連携で取り組まれていることに感銘を受け、いずれ直接的にも力になりたいと思っていました。新しい家族が増えたことで娘もとても喜んでおり、小学校の授業の一環で一時的にお預かりしている

「お蚕さま」の飼育と合わせ、日々、私たち夫婦も楽しく過ごしています。



◆街頭『縁説』（辻立ち）再開しました！

市内各所で行っています。車の中から手を振って応えてくださったり、達参会ニュースを受け取ってくださる方がいるだけでも嬉しい限りなのですが、直接お声かけ頂ける機会も増え、感謝の気持ちで一杯です。これからも自らの主義主張を話す「演説」ではなく、皆さまとのご縁を紡ぎ、上田の未来を創造していく『縁説』を継続していきます。※アメブロ、YouTube、twitter、facebook、インスタ、公式HPでも随時発信しています！



◆ビジョンを見える化してみました㊦

産業水道委員会のコロナ禍での活動で、霊泉寺温泉の活性化に関する協議を行った際、地域の子供たちが描いてくれたビジョンを見せて頂きました。そこには、緑あふれ、自然環境を生かした楽しそうな遊具や色とりどりのお魚が泳ぐ池などがハッキリと描かれていました。そこで私も上田市に対する想い、ビジョンを見える化してみました（ビジョンマップ）。



根底にあるのは家族に対する愛情と感謝で、その周りには小さい頃から慣れ親しんできた上田の歴史・風土・文化等に対する「上田大好き」があります。上田には歴史的に育まれてきた『進取の気性』（従来の慣例、慣習だけにとらわれるのではなく、新しい物事に積極的に挑戦していく姿勢）があり、現在もあらゆる分野で社会課題に挑戦している人たちや、その活動の場があります。将来世代により良い形で上田を引き継ぐためにも、従来の政治のあり方を変え、民間と行政がお互いの強みを発揮しながら密に連携し、ドキドキワクワク虹色のトルネードのように上昇気流に乗っていく、そして「誰もが自分の人生を生きる（自分らしく生きられる）まち上田」を創り上げていく、そんなビジョンが描けました。

【市長のビジョンに基づく 不登校・ひきこもり支援】

問 不登校児童生徒の直近の推移はどうか。また、その結果をどのように分析しているか。

答（峯村教育長）年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いた不登校の人数は、小学校で118人、中学校で211人、小中合わせて329人であった。令和元年度と比較すると、小中合わせて24人増加し、前年度比は1.08となり、国、県においても同様に増加傾向にある。この内訳や傾向について分析すると、最近の特徴として、小学校低学年の児童、発達障害の診断を受けた、または疑わしい児童生徒、これまで不登校の予兆が余りなかった児童生徒などの不登校者数の増加が挙げられる。

問 不登校児童生徒が民間の教育施設等に通った場合、出席扱いとする指針を定めてはどうか。

答（峯村教育長）相談、指導スタッフの現状、指導内容や方法、学校との間に十分な協力体制が保たれているかなど、それぞれの施設の状況に違いがあり、出席の取扱いは複雑で判断に難しいため、市として独自のガイドラインは定めていない。県が今年度から有識者会議を設けて、ガイドラインの策定について協議をするとのことなので、その動向、方針を注視していく。

問 ひきこもり等に関する調査の結果（2019年6月）を踏まえて、新たに取り組んだ支援と得られた成果はどうか。

答（堀内福祉部長）ひきこもりの該当者数は182人であった。特徴としては、男性が74%と4分の3の割合を占め、また年齢別比率では、40代が全体の3分の1を占めた。現在の支援事業については窓口が別々であり、十分な情報の共有が図られていない面などがあることから、既存事業の利点を生かした支援事業の拡充を図るとともに、市民の方々に分かりやすいひきこもり総合窓口の設置についても検討を行っていく。

問 市長のビジョンである市民一人一人に陽があたるあたたかいまちをつくるためには、不登校・ひきこもり支援を積極的に取り組むべきと考えるが、1期目の成果としてのコミットする事項は何か。

答（土屋市長）後期まちづくり計画において5つの重点プロジェクトのうち、子育て支援の中で、不登校などに悩む児童生徒に寄り添った支援を行い、全ての児童生徒が安心して楽しく学校生活を送ることができるよう支援を行うことを掲げている。大きな可能性を秘めた次代の社会の担い手である子供たちには、学校生活の中で自己肯定感を育み、自立した個人として健やかに成長することが期待されており、上田市にも多くの不登校の児童生徒がいることに私も心を痛めている。学校教育を取り巻く大きな課題の一つであると認識している。

ひきこもり支援については、後期まちづくり計画の中で、ニート、ひきこもりなどの状況から自立に向かう若者への支援について、またひきこもり状態にある方への支援強化について取り組むべき基本施策として掲げている。ひきこもり状態にある期間が長期間にわたる方の中には、自ら助けを求められない方もおられるのではないかと、私も心を痛めている。

いずれの課題に対しても、その解決に向けての取組は、一人一人の状況把握に努め、心の声を聞きながら、孤立させることなく、状況に寄り添った支援を行うことが必要であると考えている。

市民一人一人に陽があたるあたたかいまちをテーマに据え、不登校、ひきこもりに対する支援について、引き続き教育委員会及び関係部局と横断的な取組を進めていく。とりわけ学校教育分野では、本年の総合教育会議の場において、不登校を最重要課題として取り上げ、関係者を招聘し、現場の声を聞いたり、他の市町村や民間等で取り組んだ成功事例を参考に、回数を重ねて課題解決に向けて鋭意取り組んでいく。

皆様のご意見ご感想をお待ちしております！